

平成 21 年 11 月 21 日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム 平成 21 年 第 10 回講話

本部幹事 館野先生のご逝去

中斎塾フォーラムの本部幹事の館野先生が亡くなりました。北関東フォーラムからも多くの幹事さん・会員さんに参列を戴きまして、有難うございました。先生は 8 月に脳梗塞で入院をしました。その時は非常に回復基調で、それほど酷いとは思いませんでした。退院をされて、その後、体調が悪いので再入院をしました。膵臓の炎症があるということでしたが、入院中に 2 回目の脳梗塞がありました。お医者さんが脳梗塞を防止する薬を出し忘れたというのです。10 日の夜、ご家族と夜 9 時ごろまで話をされていたそうですが、急変してそのまま旅立たれました。発病してから 3 ヶ月です。亡くなられた原因を調べたところ、癌があって、それが骨にも転移してということです。

つくづく感じたのは、お医者様は一箇所ではダメだということです。かかりつけ医師の他に、別の角度から見てくれるお医者様が数名必要だと思いました。それと、定期的な検診を、できれば半年に 1 回は受けた方が良いと思います。

論語の八佾の中に、葬式に関して次のような章があります。

りんぼう れい もと と しいわ だい と
林放 礼の本を問う。子曰く、大なるかな問うこと。
れい そ おご むし けん そう そ おさ むし いた
礼は其の奢らんよりは寧ろ儉なれ。喪は其の易まんよりは寧ろ戚めと。

葬儀については杓子定規にやらない方がよい。哀悼の気持ちがこもっていればそれでよいということ。葬儀を行なう業者さんの決められたスケジュールを決められた通りに坦々と執り行うのではなく、心のこもった葬儀ができるように努力する方がよいでしょう。私の父が亡くなった時も、業者の用意する会葬御礼の葉書が通り一遍の杓子定規の文章で、こんなものは出せないと思って、自分で挨拶を書いて出した記憶があります。急に死は訪れますから、通夜も告別式も業者さん任せにならざるを得ないのは仕方がないとしても、何か一つ、自分自身の気持ちが込められているものを、来て下さった方に伝えられるようにすることが必要だと思いました。

恒例の質問

恒例の質問を致します。

昨日一日、嘘をつかなかった方、手を挙げて下さい。

(・・・沢山手が挙がる)

朝起きてから寝るまでの間、何をしていたかがパッと浮かんでこないとなかなか手を挙げるのが難しい。何かをするには、どうしても判断して行動に出ますから、その判断をする際に、嘘をついたかつかないかということは結構大きなポイントです。

昨日一日、良い日だったでしょうか。

(・・・沢山手が挙がる)

皆さん、ほとんど手が挙がりました。

昨日一日、有難うと言ひ、有難うと言われた方は手を挙げて下さい。

(・・・沢山手が挙がる)

先週、東京フォーラムで同じ質問をしましたら、初めて来られた方で、「私は有難うと言いつけているから、それで良いと思っていたけれども、よく考えてみると周りから言われない。これは何とかしなければならなかった」という反応がありました。私も同じで、なかなか有難うと言われるのは難しいですね。

今日の論語

論語は、「ろんご」と読んだり、円珠経と呼んだり、学者の先生方が色々な読み方をしています。解釈も、色々な読み方があります。私がベースにしているのは宇野哲人先生の解説と貝塚茂樹先生の解説ですが、一番根幹をなしているのは、渋澤栄一先生の『論語講義』が大好きですので、これを基本にしています。

論語と対面していく時は、最初は素読です。自分で好きな文章を見つけること。それには素読が一番良い。素読で声を出して読んでいくと、自然と何となく残るものがあります。それから解説本を読めば良いでしょう。最初に解説本を読むと、色々な解釈がありますから、しかも正反対の解釈をしているような場合も沢山ありますから怖い。自分なりの解釈を持てれば一番良いと思いますが、普通の人論語と対する時は、これは良いなと思う文章を一つ見つけたらそれで合格です。

私の場合は、論語の中の「利によりて行なえば、怨み多し」です。渋澤栄一は『論語講

義』の中で「一生涯を貫いて守るべき規矩準繩である」と言っています。渋澤栄一は、自分自身が色々な問題にぶつかってどうすればよいか判断基準に困った時には、すべて論語に答えがあると信じて、周りの人にも勧めて実行した一生でした。その根幹は「利によりて行なえば、怨み多し」という言葉です。

ですから何か一つ、自分はこれが良いと思う言葉を見つければ、もう、論語は合格だと思ってよい。それがだんだん広がって、他の文章も読んだり、解釈をするようになれば良いと思います。

私は今、論語を活かすには、身の周りのものや現代と照らし合わせてどうかを考える読み方が一番良いと思っています。そのように本日の論語を読んでみましょう。

では、本日の論語は里仁第四 7~16です。

しいわ ひと あやま おのおの そ とう おい あやま み ここ じん し
子曰く、人の過ちや、各其の党に於てす。過ちを觀て斯に仁を知る。

自民党と民主党で考えます。自民党は、強行採決をよくやっていました。政権交代をしたら、強行採決をしたものに対して文句を沢山つけ始めました。民主党は小沢一郎の影に怯えながらやっています。

人の過失は、それぞれ党（自民党・民主党・・・）の方針に従って、過失を繰り返している。ですからあの人達の人徳のある人たちかどうかは、今の国会論戦を見ていると、全員に失格だと言わざるを得ません。

しいわ あした みち き ゆうべ し か
子曰く、朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり。

これは有名な科白です。

朝方、自分が知りたいと思っていた真理を実感できれば、夕方死んでも一向にかまわない。

しいわ し みち ころざ あくいあくしよく は もの いま とも はか た
子曰く、士道に志して悪衣悪食を恥ずる者は、未だ与に譲るに足らざるなり。

粗衣粗食を恥ずかしいと思う人間は、一緒に話をする相手にもならない。心の中がきちんとしていれば良いと孔子は言っています。これは子路が頭の中であって、こういう言い方をしたわけです。

立派な服を着ているからといって、それで良いかなと思うと、なかなか今の時代はそう

でもありません。立派な服を着るのは詐欺をする人の前提条件だそうです。大きな詐欺をするような人は、大会社の社長と見紛うような服を着て、押し出しも立派のようです。ですからここは、見た目だけでは分からないと私は読んでいます。

しいわ くんし てんか お てき な ばく な ぎ とも したが
子曰く、君子の天下に於けるや、適も無く、莫も無し。義と与に比う。

君子は、天下の人に対する時、仇敵もいないし馴れ合いもない。ただ正義の人とだけ親しみあうものだ。

しいわ くんし とく おも しょうじん ど おも くんし けい おも しょうじん けい おも
子曰く、君子 徳を懷えば、小人 土を懷う。君子 刑を懷えば、小人 恵を懷う。

人格の高い立派な君子は、何か事が起きた時に道徳を考える。器の小さな人は、一身上の安楽、自分の幸せを考える。君子と小人では、そのあたりが違います。自分自身に照らし合わせて、何か問題が起きた時に道徳的なことを考えるか、自分の身の安楽を考えるか、自分自身を測ると良いでしょう。

君子が法律を考える時には、小人は目先の利益を考えるものだ。これも自分自身や友人について考えてみれば良いでしょう。

河井継之助と小林虎三郎の友人関係は有名です。長岡藩の小林虎三郎は非常に貧乏で、河井継之助が色々と物質的に応援をしていました。小林虎三郎は何とか河井継之助にお返しをしなければならぬと一所懸命考えて、河井継之助に対する諫言をどんどん言い続けることでお返しをしたという話があります。河井継之助にとっては耳の痛いことばかり言われるわけですから、たまったものではないと思いますが、器が大きいので友人関係が続いていきました。

しいわ り よ おこな うらみおお
子曰く、利に放りて行えば、怨多し。

先ほども申しましたが、この文章は私にとって判断基準になっています。

目の前に何か儲かりそうな話がぶら下がって来た時に、すぐにぱくっと食いつかない。たいした努力をしなくても、ちょっと手を出せば素晴らしいものが手に入ると思った時、飛びつくと大概やっかいなものが後から付いて来ます。

しいわ よ れいじょう もつ くに おさ なに あ よ れいじょう もつ くに おさ
子曰く、能く礼讓を以て国を為めんか、何か有らん。能く礼讓を以て国を為めず

んば、礼を如何にせん。

礼讓とは謙遜、礼の根本です。何か行動する時に、もう少し謙遜したらどうか、と自分で自分に言い聞かせると良いでしょう。

翻って今の国会はどうでしょうか。国会論戦の最中に席を立ってしまうというのは、謙遜は礼の根本だということを少しも考えていない人達だとつくづく感じます。

子曰く、位無きことを患えず、立つ所以を患う。己を知ることを莫きを患えず、知るべきことを為すを求む。

ポストが欲しい、欲しいと言うものではない。実力があれば自然とポストに就くようになる。自分が世の中に知られていないということを気にしないで、やる事をやっていれば、知らず知らずのうちに人から認められるものだと考えなさい。

これは人によって、その通りだとつくづく感じる人もいるでしょうし、当たり前だと思う人もいます。

論語は人によって感じ方が違います。しかし、これは違っているという感想は少ない。その点、論語は良いなと思います。

子曰く、参や吾が道は一以て之を貫けりと。曾子曰く、唯と。子曰く、門人問いて曰く、何の謂ぞやと。曾子曰く、夫子の道は忠恕のみと。

孔子が言いました。「参や、私の一生は唯一つの道をもって貫いたのだよ」

曾子が「そうですね」と答えました。

孔子が出て行って、門人がどういう意味ですかと聞きました。

曾子が答えました。「孔先生の一生貫く道は、忠恕である。」

忠とは、自分自身の良心です。良心に従って生きてゆく。恕は、他人の身になって色々心配し、実行していく。この二つが一体化したものが仁です。

先ほど、渋澤栄一が「利によりて行なえば、怨み多し」で一生貫いたと申しました。何か一生貫くような言葉を持つことは良いと思います。

子曰く、君子は義に喩り、小人は利に喩る。

これも判断基準として使えます。

何か問題が起きた時に、君子というものは人間の進むべき正しい道によって判断し、器の小さい人間は、自分自身の利益がどうかということを元にして判断する。

何か困った時にどういう判断をするかで、君子か小人かの道が変わって来ます。自分は君子か、或いは小人か、自分自身や周りの人を考えてみると良いでしょう。誰かが近づいてきた時、その人の動機を考えて、目先の利益によって動いているのか、正しい道を考えてその判断基準から推して動いているのか考えてみると、答えは自ずから出ます。

氣になっていること

デフレ

今日の新聞を見ると、「政府が緩やかなデフレであると認めた」という記事がありました。私は以前から言っていますが、今はデフレスパイラルそのものではないかと思っています。今頃デフレと認めるのは遅いと思いますが、政府の立場としては苦しい所なのだろうと思います。皆さんはどう思いますか。今、キャベツの値段はいくら位だと思いませんか。スーパーで1個80円から100円くらいで売っています。主要な食料品、それに類する調味料等は右肩下がりです。それらを製造販売している会社は当然苦しいです。デフレの世の中はいつまで続くのか、どうすれば抜け出せるのかが、今、私にとって大きな問題です。

健康保険

もう一つ引っかけたものは、健康保険です。中小企業に勤めている人達の給料がどんどん下がるものだから、健康保険が大変になっていて、来年になったら保険料を上げるという記事が出ていました。

機密費

山田方谷が藩政改革の任に就いた時には、情報公開を一所懸命しました。自分の家に外部の人を入れて、山田方谷の収入と支出を公明正大に情報公開しました。しかるに、今の政治の任に携わる人達はどうでしょうか。例えば、機密費はなぜ情報公開しないのでしょうか。今すぐ出来ないのであれば、何年前の機密費だけでも公開すれば良いと思います。自分たちだけ隠しておいて、一般の我々には、税金をかけるから収入を明らかにしなさいというのでは矛盾しています。どこまで情報公開すれば良いのか、非常に氣になっていま

す。

介護職員処遇改善交付金

今、私は別会社で介護をやっていますので、それに関連して介護職員処遇改善交付金なるものが気になっています。介護職員の処遇改善交付金を申請しない事業所がかなりあって、確認をとったところ、申請しない理由が、不公平だからという答えが多かったそうです。医療病床の介護職員は対象外だったり、訪問介護の看護師やケアマネさんも対象外だったりして、同じ病院・同じ施設の中で働いていても認められる人と認められない人がいるという状況では、内部にぎくしゃくする芽を生むようなものです。現場の事をあまり考えないでこういう法律を出しているから、矛盾がすぐに表面化するのだろうと感じました。

行政刷新会議

日本科学未来館の毛利館長が事業仕分けで答弁をしていましたが、非常に面白いと感じました。自分是一所懸命来館者を増やす努力をしているけれども、経営の母体が二重三重になっていて、毛利さんには人事権もなければ運営管理件もないのだそうです。そういう実体を世間に公表できて良かったと言っておられました。

貧困率・派遣村

この間、新聞に「一人親の貧困率が54%」と出ていました。厚生労働省が2007年に調査をした結果です。貧困率というのは何なのでしょう。数字自体が相当マジックだと思います。国民の所得を順番に並べて、真ん中の人々が228万円の所得で、その半分の114万円に満たない人を貧困者と呼ぶのだそうです。基準がどうも違うのではないかという気がします。ちなみに、その次の2008年にOECDが調査した数字は58.7%を超えています。

どんどん貧困者が増えてくると思います。私の中で気になっているのは、今年は政府が派遣村を作らせないと打ち出していますから、派遣村が出来るのか出来ないのか、似たようなものが出来るのか、意識して見えています。もともと派遣村は、最初から派遣村を作ろうと思ってやったのではなくて、色々な知恵を集めてやっていった結果として派遣村のような形態のものが出来上がったものです。

『カレント』で提言

日本の国は多分、本当に良い政治家・国のことを考えて国民のことを考えて、真っ当なことをしようとする人達で埋まれば、相当良い国になると思うのです。例えばその出だし

として、2日間の在籍にもかかわらず1か月分の給料を貰った議員たちは、今からでも遅くはないから返すべきだと思います。不透明な寄付金を貰っていた政治家は、事が発覚したら返しています。きちんとお給料として貰った報酬なのだから、公明正大に「この貰い方は間違っていました」と堂々と返却するような議員がぞくぞく出たなら、日本の国も日本の政治もよくなると思います。私は折に触れて言い続けたいと思っています。

私の師匠である木内信胤先生が、『カレント』という雑誌を発行していました。今でも木内信胤先生の意味を継いで、社会に対して提言をしている雑誌で、衆参両院の議員さん達全員に送られています。先日、山田方谷について書いて欲しいという依頼がありましたので、来年1月から原稿を書くことにしました。山田方谷の情報公開の仕方、自分の家・家族がどういう収入と支出をしていたか、それらを踏まえて、備中松山藩という一つの国家としてはどういう収入でどういう支出をしたか、それが約7年から8年の間にどういう結果を生んだのか、それを現代に置き換えてどう思うか・・・それぞれの方が反省し、行動に移るようなものを書きたいと思っています。

民間との感覚の違い

今の日本の国の税務署は何なのでしょう。間違えて税金を多く納めた場合、納め過ぎていましたと返してくれるどころか、申請しなさいとなる。民間ならば、間違えて多く貰ったと思ったら、当然自分で返しに行きます。これは本当におかしいと思います。民間の常識と行政・政治の常識とがあまりにも大きく食い違い過ぎると、特に賄賂・汚職に対する意識が乖離し過ぎると、その国は滅びます。経済破綻を起こします。

私は数年前から経済破綻を起こした国々を回って、骨身に染みて感じています。日本は今、その方向に向かってまっしぐらに突き進んでいると思います。

干支から見ると、やはり来年もずっと景気が悪い。少しも良い材料が見当たりません。腹をくくって来年1年間は過ごさねばなりません。

干支から見る1年

干支は大きな時代の流れを見ます。今年は己丑（きちゅう・つちのとうし）。己は己を正す年、丑は曲ったものを直すという要素を持っていますから、自らを正そうという人達が主流になって、現実曲っているものを直すという年です。行政刷新会議について、やり方は色々問題もあるけれども、積年の膿を出そうとやっていることは非常に良いことだと思います。それをもっとどんどんやれば良いのです。それを、己を正さない連中が進

めていったなら、日本の国はとんでもなく悪い方向に行くでしょう。

政・官・財、みな己を正さない人達が主流になっているから、己を正すべき廻り合わせの年に、正さない人達が中心になっていれば、当然、曲がりくねったものを直そうと思っても直りません。曲がりくねったまま、悪い方向に行くだろうと思います。ですからデフレスパイラルが片付くとは考えられません。

来年は庚寅（かのえとら・こういん）です。昨年以上に不況のトンネルが続き、出口は見えない一年になる。来年は耐久レースになると思います。詳しいお話は、季刊誌で紹介するつもりです。

以上で本日の北関東フォーラムを終了と致します。有難うございました。